# 兵庫県における人の野生動物に対する意識
# 猟師の野生動物に対する意識調査
## ―猟友会会員に協力を得て―

**People's attitude toward wild animal in Hyogo Prefecture, hunter's attitude survey toward wild animals: Conducted with aid of Hyogo Hunter Club**

布　施　綾　子・福　島　慎太郎・小　方　　登
Ayako FUSE, Shintaro FUKUSHIMA, Noboru OGATA

神戸市では 2002 年に「イノシシ餌付け禁止条例」が制定された。現在，兵庫県はイノシシの被害に伴い猟友会とともに捕獲を行っている。猟友会会員の高齢化は以前より指摘されており猟友会会員の野生動物への意識を明らかにすることは今後の野生動物管理に役立つと考える。兵庫県の猟友会会員を対象に意識調査を実施し分析を行った。その研究の概要を提示する。

キーワード：猟友会，イノシシ，狩猟，野生動物，害獣防除
Key words：hunters club, wild boar, hunting, wild animal, mammalian pest control

## Ⅰ　はじめに

神戸市では野生のイノシシからの被害防除のため，2002 年に「イノシシ餌付け禁止条例」が施行された。餌やりを禁止する区域を東灘区，灘区に設定していたがその後，改正に伴い中央区へ拡大，さらには違反者の公表を取り入れている（神戸市 2014）。さらに西宮市では 2013 年 4 月 1 日に，「西宮市いのしし餌やり禁止条例」が施行された。神戸市の条例と同様に餌やりを禁止する区域を設定し，条例違反者に対して，市から勧告措置が定められている（西宮市 2013）。また兵庫県下のイノシシの被害状況は農業被害，生活環境被害，人身被害ともに深刻で，播磨南東部や家島諸島，沼島などにも分布が拡大している（兵庫県 2022a）。農業被害状況は令和 2 年度は 1 億 8200 万円と平成 30 年度から約 4000 万円減少し，兵庫県下のイノシシによる人身被害も近年減少傾向にある（兵庫県 2022b）。令和 2 年度の捕獲頭数は 22,926 頭で，15,000 頭以上の捕獲が平成 25 年度から継続しており，強い捕獲圧が維持されている（神戸市 2022c）。

神戸市内においても被害はピーク時の 5%となっており餌付け禁止の悪質違反者の名前や住所の公表などを盛り込んだ条例改正の効果と捉えられている（神戸新聞 2021）。しかし中央区諏訪山や再度山などで登山客イノシシに噛まれる被害は報告されており（神戸市 2022）継続的

な被害防除は必要と捉える。兵庫県下では猟友会と共同しイノシシの捕獲をし，頭数調整を行っている。猟友会会員は平成 29 年度以降，7000 人まで回復しており年代別にみると，令和 2 年度には 50 代以降は 7 割になり 50 代以下が増加傾向にある（兵庫県 2022c）が未だ高齢化は指摘されている。

## Ⅱ　研究の目的

2009 年，一般市民への野生動物に対する意識調査は著者によって実施されたが，インタビュー調査の結果はイノシシに対してプラスイメージは約 58.6%，中間的イメージは約 9.3%，マイナスイメージは約 3.6%であった（布施 2011）。意識調査は人の野生動物への行動のコントロールするために有用な方法であると指摘があり野生のサルに対しての人の意識の調査なども行われている（田中など 1995）。本章ではより野生動物と関わりが深い猟友会会員に野生動物に関する意識調査として，アンケート調査を実施した。一般市民と比較し猟友会会員は自然環境の中で野生動物とより近い関係で共生していると捉えられるが，イノシシなど野生動物に関する捉え方は異なるのだろうか。

狩猟者の高齢化，減少，狩猟そのものの不人気などの問題は指摘されているが，あまり人の意識と行動に焦点を当てた調査は実施されていない。

狩猟に携わる人々の野生動物への意識や行動（狩猟範囲や狩猟方法）を明らかにすることは，上記の問題に対する解決法を考察するだけではなく，一般市民の意識と比較を可能にし，今後の適切な法整備を考える上で有用だろう。

## Ⅲ　研究の方法

兵庫県猟友会会員 1,061 名を対象にアンケート調査を実施した（回収率約 32.1%）。調査期間は2013 年 8 月～2014 年 7 月とした。アンケートの質問項目や質問法はハノーファー大学 Oliver Keuling 博士がハノーファー周辺において実施した猟友会会員に対するアンケート調査を元に博士ともに作成した[1)]。兵庫県自然環境課より実施の告知を各支部長に行い，2013 年 8 月に兵庫県猟友会より配布，収集は各支部長より著者に送付とした。自由回答と非自由回答を併用した。結果を集計・クロス集計を行った。さらに，イノシシに対する意識の調査では好意的なものをプラスイメージの意見とし，好意的ではないものをマイナスイメージの意見，どちらともいえないものを中間的イメージの意見としてカテゴリー分別した。イノシシに対する意識調査の結果を農林漁業従事者（n=222）と非農林漁業従事者（n=884）に分け，クロス集計による比較を行った。さらにイノシシに対する「好き」という項目と「自分の町に居て欲しい」という項目を従属変数とした順序ロジスティック回帰分析を実施した。検定には，ソフトウェア“IBM SPSS Statistics 20”を使用した。

## Ⅳ　結果

アンケート結果の集計結果を，表 1 において示す。総数 1,061 名中，男性 1,032 名，女性 6 名，無回答 23 名となった。年代別では 60 代が最も多く 526 名（約 12.4%），次いで 70 代 262 名（約 24.7%），50 代が 132 名（約 12.4%）となり 50 代以降が全体の約 89.4%を占めた。表 2 から表 6 にクロス集計結果を示す。

アンケート結果では，狩猟の頻度としては約 46.6%が週一回狩猟を行い，狩猟の環境としては約 60.0%が森林を狩猟場とし，約 77.6%の人が自宅より 50km 範囲内で行っていることが明らかになった。また狩猟の方法としては，約 53.7%がグループで，約 41.6%がイヌを使用し狩猟を行っていることが明らかになった。狩猟の道具としては，囲い罠の使用は約 9.1%，箱罠は約 30.1%，くくり罠は約 26.4%，散弾銃は約 63.3%，ライフル銃は約 34.3%となり罠と銃機の併用がみられた。狩猟対象動物はイノシシ約 87.1%，シカ約 77.2%，とイノシシが一番多くあげられた。

「なぜ狩りをするのか」という問いに対し，約 52.6%が「害獣駆除」と答えた一方で，「射撃・狩りが楽しい」と約 52.9%が答えた。さらに「なぜイノシシ狩りをするのか」という問いに対し 41.8%「害獣駆除」のため，約 41.8%が「射撃・狩りが楽しい」と答えた（n=1061）。さらに「賞品（金）」のためと答えたのは，「なぜ狩りをするのか」という問いには約 0.9%，「なぜイノシシ狩りをするのか」という問いに対し約 1.2%と，両者ともに低い数値であった。「肉のため」と答えたのは上記の問いに対しそれぞれ，約 11.8%，約 12.9%となった。

さらにアンケート調査による意識の比較では，「イノシシは好きか」という質問に猟友会会員は約 37.4%が「はい」と答え，約 25.6%が「いいえ」と答えた。一方，「あなたのまちにイノシシは居てほしいか」という質問には約 29.7%が「はい」と答え，約 42.9%が「いいえ」と答えた。また，「イノシシに生きる権利はあるか」という質問には約 64.7%が「はい」と答えた。「いいえ」と答えたのは約 7.9%に留まった。これらは神戸市におけるアンケート結果（布施　2011）からは大きく違いがみられ，一般市民では「イノシシは好きか」という質問には約 5.8%が「はい」と答え，約 21.2%が「いいえ」と答えた。また「あなたのまちにイノシシは居てほしいか」という質問には約 9.6%が「はい」と答え約 38.5%が「いいえ」と答えた。また「イノシシに生きる権利はあるか」には約 32.7%が「はい」と答えた。「いいえ」と答えた人は 0%であった。

クロス集計では，「あなたのまちにイノシシは居てほしいか」という問いに対し，「はい」と答えた約 22.6%が「イノシシが好きか」という質問に「はい」と答え，前者の問いに「いいえ」と答えた人の約 9.5%が後者の問いに「はい」と答え，約 13.1%の差がみられた（表-3）。また「イノシシに生きる権利があるか」という問いに「はい」と答えた人の約 31.6%が「イノシシが好きか」という問いに「はい」と答え，前者の問いに「いいえ」と答えた約 1.6%が後者の問いに「はい」と答え，約 30.0%の差がみられた（表 5）。さらに表 5 に示すように，「イノシシに生きる権利があるか」という問いに「はい」と答えた人の約 26.0%が「あなたのまちにイノシシは居てほ

しいか」という問いに「はい」と答え，前者の問いに「いいえ」と答えた約 1.2%が「いいえ」と答え，約 24.8%の差がみられた。一方で，「イノシシに生きる権利があるか」という質問に「はい」と答えた約 26.3%は「あなたのまちにイノシシは居てほしいか」という質問に「いいえ」と答えており，イノシシへの生きる権利に対する捉え方と身近な住環境のへの許容の意識は異なることが明らかになった。

さらに，イノシシに対する意識の調査ではプラスイメージの意見は約 19.2%，中間的イメージは約 27.6%，マイナスイメージの意見は約 48.3%となり，多数はイノシシをマイナスイメージで捉えていることが明らかになった（表 6）。つづいて，イノシシに対する意識において，農林漁業従事者（n=222）と非農林漁業従事者（n=884）をクロス集計の結果を示す（表 7）。「かわいい」と答えた農林漁業従事者は 2.0%，非農林漁業者は約 14.2%となり前者と比べ約 12.2%低く（各グループでの比率），「嫌い」と答えた前者のグループでは約 31.5%，後者が約 16.4%となり約 15.1%低いことが確認された。

順序ロジスティック回帰分析から，イノシシを「好き」という項目と「自分の町にいて欲しい」項目の 2 項目には項目は有意な正の関連を示していた。また，「イノシシに居て欲しい」を従属変数とした分析においては，居住年数が短い人の方が「好き」「居て欲しい」と感じていることが明らかになるとともに，狩猟の距離が短い（近くで狩猟をしている）人の方がイノシシに「居て欲しい」と感じていた。これは狩猟のための利便性に基づいた意識の結果といえるのではないだろうか。一方で，「イノシシが好き」項目に関しては，狩猟の距離が長い（遠くで狩猟をしている）人の方が「イノシシが好き」と感じていた（表 8，9）。これは人の意識は，居住環境がイノシシの生息地から遠いほどイノシシの存在に対する心理的距離がある結果だろうと推察される。

## V　考察

今回の調査では，兵庫県の猟友会の会員においては 9 割が 50 代以降であった。令和 2 年度には 50 代以降は 7 割になり 50 代以下が増加傾向にある未だ高齢化率は高い（兵庫県 2022c）。また今回の調査では約 5 割がグループ猟で猟を行っており，高齢化に伴うグループの崩壊が懸念される。女性の猟師が極端に少ないことやライフル銃の使用は約 3 割にとどまっていることなどから，ライフル銃を使用する単独猟を行う猟師，女性の猟師の育成は，前述の問題への解決策のひとつになり得るだろう。

またイノシシは特にイヌに対する忌避反応があり（石川ほか 2001）行動が変化する（布施など 2015）。その行動変化を利用し兵庫県では約半数近くがイヌを利用していることが明らかになった。

著者による一般市民に対する意識調査（n=140）では，イノシシに対してプラスイメージは約 58.6%，中間的イメージは約 9.3%，マイナスイメージは約 3.6%であったが，それと比較して，

今回のイノシシに対する意識の調査ではプラスイメージの意見は約 19.2%，中間的イメージは約 27.6%，マイナスイメージの意見は約 48.3%となり，大幅に結果が異なった。考えられる理由として，以下の 5 点を挙げる。

1. 住居環境・行動範囲の違い

神戸市でのインタビュー調査対象者は一般市民であり，特に市街地で行動している人が多かったことが推察される。彼らは野生動物と対峙する機会が極めて少なく，例えイノシシなどの野生動物に出会ったとしてもインフラ整備などにより距離があり恐怖心などが少ない（布施・福島 2014）。それに対し，猟友会会員は兵庫県全域に居住しているが狩のため積極的に山間部などで野生動物を捜索し行動していると考えられる。

2. 理解・知識の違い

猟友会会員はイノシシと対峙する機会が多く，イノシシの身体能力など詳細を生態学的，または動物行動学的に理解しており，時には人にとって脅威となる可能性を理解している。

3. 経験の違い

前調査地である神戸市東灘区の天上川周辺ではイノシシが定住した場所と，人が存在する場所に高低差があり，イノシシと人は容易に接触が出来ず，被害に合う危険が少ない。一定の距離が保たれていることにより，ある程度は安全であり，危険，怖いなどというマイナスイメージを持ちにくい。一方で猟友会会員は狩猟に携わることで野生動物を追跡・捕獲・運搬・処理など様々な経験があり，肉食に対しても自然から取得したものから栄養をとり，その連続性の中に自身を捉えることが出来ていると考えらえる。様々な感情が発生する機会が多くあるだろう。

4. 職業の違い

農業従事者やその関係者，または公園など公共施設の管理関係者であれば，イノシシによる農作物被害や環境破壊に伴う経済的損失など，問題は深刻でありイノシシへのイメージはよりマイナスになるだろう。ただし，神戸市でのインタビュー調査では職業は未確認である。表 7 に示したように農林漁業従事者と非農林漁業従事者の間に「かわいい」や「嫌い」という意識に差がみられたことからも，狩猟を行う行動として共通項があったとしても職業が意識の差を生むといえる。

5. イノシシの行動の違い

都市部に住み着いたイノシシは人馴れをしていて人に近づくことも多い。そのようなイノシシに対して，人は感情移入しやすく，ペットのように捉え，そのように扱う。一方で狩猟の対象となるイノシシは山林などに生息しており人馴れはほとんどなく，用心深い。また幼獣を連れたメスの成獣やオスの成獣などは，人にとって危険な場合も多い。

特に上記の「2. 理解・知識の違い」とは，猟友会会員は，狩猟の経験に伴いイノシシの生態の知識を持っている。また，狩猟後に捕獲獣を食肉処理し食べるという，経験を通した知識の違

いもあるだろう。一般市民がスーパーなどで，パック詰めされている肉を購入するのに対し，動物に対する意識は異なるだろう。さらに狩猟対象としているので感情移入を避けていることなども，考えられるのではないか。

生活形態の差，狩猟の際の自然や動物への関わり，農業に由来する生活，などから，動物へのイメージは想像的なものと実際的なものとの間に差異が存在することが考えられる。イノシシの生きる権利については猟友会会員，市民に対するアンケートにおいて，否定をした人はごくわずかであり，身近に存在するイノシシに対しての意識とは全く別に認識し，道徳的な規範に従った意見だろう。

さらに順序ロジスティック回帰分析からは，「好き」と「近くにいて欲しい」という項目は正に相関し，居住年数が短い方が多くみられた。居住年数が長くなるほど住む居住区域に関する情報や経験の重なりからイノシシへの意識が変化していると捉えられる。また猟師の行動範囲の差が意識の差を生むことから，行動そのものではなく行動範囲や居住区域から狩猟場への距離も意識への影響があることが明らかになった。

猟師の人数に関する問題に関しては，昨今の急激に変化した社会的状況に触れておく。最近の人の自然との関わりの減少は指摘されているが（Soga and Gaston 2016）2020 年前後から流行している新型コロナウイルス COVID-19 によって人の行動範囲や移動の方法，さらに授業や仕事のテレワーク化など生活様式にも変化は及んでいる。ノルウェー・オスロではロックダウンによる外出自粛の後に，人の行動変化があり都市部における緑地の使用度が増加しているという報告がある（Venter et al. 2020）。コロナウイルスは飛沫・空気感染性であり，感染を防ぐために広い空間で人と対面することを選ぶ人が増加していると捉えることができるだろう。また日本においても人と人との直接の繋がりは大幅に減少している中，感染リスクを回避しつつ人との繋がりを保つ野外活動，キャンプなどのアウトドアへの関心は高まってきており，アウトドアグッズの売り上げなどは 2020 年以降増加の予測をたてている（日本経済新聞 2020）。また 2020 年には「キャンプ」「アウトドア」「外遊び」などのネットの検索ワードとして優位に増加がみられる（板橋 2022）。

これらの傾向は今後，若年層における猟に関しての興味を持つ可能性として展望を持つ。淡路では 2019 年の転入のデータから 20 代が移住後に従事する仕事について，農業が優位に多いという結果が報告されている（堀内 2022）。「田舎ぐらし」への憧れから農業を始める若者の増加に伴い，ウサギ，イノシシ，シカや外来種のアライグマ等，害獣への対策として，狩猟に携わる場面が増加すると考えられる。

最後に，野生動物の保護・管理そのものは SDG’s の掲げる目標 15 の「陸域生態系の保護，回復，持続可能な利用の推進，持続可能な森林の経営，砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」ゴールに含まれると捉える（United Nation 2015）。獣害問題のワードそのものはアジェンダには記載はなく広義に解釈されやすくひとりひとりの

生活に根差した詳細目標が設定しづらい部分もある。しかし野生動物の管理は森林の保護・管理や農業や生活の安全を支え，さらには食料確保の持続性に繋がるだろう。今後は特に輸入や畜産のみに頼らない野生動物の食料や材料としての利用は災害などに強靭（レジリエント）な地域確立を助け，具体的には地場産業のひとつとしても可能性を秘めていると捉える。

可能性を具現化するには今回，協力を得た猟友会の方々や住民との協働が大きな鍵となるだろう。コロナウイルスの流行後，新しい生活様式が定着しつつある。身体的距離，社会的距離だけでなく心理的距離を測ることは新しい社会協力体制を築くなかで重要となるだろう。各々の環境を各々が守る，野生動物と共生するという自覚を持つ人材を育てる学校・社会の体制が望まれる。

## Ⅵ　まとめ

神戸市東灘区で市民を対象に行った意識調査と，猟友会会員を対象に行ったアンケートの結果では，イノシシに対するイメージは大幅に異なった。具体的には市民に対する意識調査（n=140）では，イノシシに対してプラスイメージは約58.6%，中間的イメージは約9.3%，マイナスイメージは約3.6%であったが，それに対し，猟友会会員を対象とした今回のイノシシに対する意識の調査ではプラスイメージの意見は約 19.2%，中間的イメージは約 27.6%，マイナスイメージの意見は約 48.3%となり，大幅に結果が異なった。さらに，猟友会会員のイノシシに対する意識において，農林漁業従事者（n=222）と非農林漁業従事者（n=884）の比較では，「かわいい」と答えた農林漁業従事者は約2.0%，非農林漁業者は約14.2%となり前者と比べ約12.2%低く，「嫌い」と答えた前者のグループでは約31.5%，後者が約16.4%となり約15.1%低いことが確認され，差がみられた。イノシシに対するイメージの違いに対して包括的に考えられる理由としては，一般市民と比較し猟友会会員は自然環境や野生動物と関わりの有無が考えられた。また猟友会会員のイノシシに対する意識に関しては，職業の差が意識の差と関連していることが明らかになった。さらにイノシシに対して「好き」や「近くにいて欲しい」という意識には，居住年数や居住区域が影響していることが明らかになった。

今回，前調査と今回の調査の比較を行ったが，手法や人数など異なる点があるため，条件を統一した調査による比較は今後の著者の課題としたい。

表１　アンケート結果（以下 Q1-Q19 までつづけて示す）

| Q1　年代 | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 20 | 5 | 0.5% |
| 30 | 29 | 2.7% |
| 40 | 74 | 7.0% |
| 50 | 132 | 12.4% |
| 60 | 526 | 49.6% |
| 70 | 262 | 24.7% |
| 80 | 29 | 2.7% |
| 無回答 | 4 | 0.4% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q2　男女比 | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 男性 | 1032 | 97.3% |
| 女性 | 6 | 0.6% |
| 無回答 | 23 | 2.2% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q3　職業 | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 農林漁業の自営･家族従業者 | 222 | 20.9% |
| 商工販売サービス業の自営家族従業者 | 47 | 4.4% |
| 自由業(医師, 弁護士等の個人事業者) | 62 | 5.8% |
| 会社役員･経営者 | 96 | 9.0% |
| 会社員 | 200 | 18.9% |
| 公務員 | 42 | 4.0% |
| パート | 28 | 2.6% |
| 無職 | 303 | 28.6% |
| 無回答 | 61 | 5.7% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q4-2 居住年数 | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 10 年未満 | 48 | 4.5% |
| 20 年未満 | 49 | 4.6% |
| 30 年未満 | 43 | 4.1% |
| 40 年未満 | 112 | 10.6% |
| 50 年未満 | 125 | 11.8% |
| 50 年以上 | 451 | 42.5% |
| 無回答 | 233 | 22.0% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q5 どのくらいの頻度で狩りに行くか | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 毎日 | 115 | 10.8% |
| 週一回 | 494 | 46.6% |
| 月数回 | 312 | 29.4% |
| 月一回 | 44 | 4.1% |
| 半年に一回 | 18 | 1.7% |
| 年一回 | 15 | 1.4% |
| 過去に行ったことがある | 8 | 0.8% |
| 無回答 | 55 | 5.2% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q6 環境 場所（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 森林 | 256 | 24.1% |
| 平野 | 46 | 4.3% |
| 混合 | 230 | 21.7% |
| 山林 | 637 | 60.0% |
| 回答総数 | 1169 | |

| Q6 環境 距離 （複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 0～10 km | 372 | 35.1% |
| ～50 km | 451 | 42.5% |
| ～100 km | 152 | 14.3% |
| ～200 km | 59 | 5.6% |
| 200km～ | 12 | 1.1% |
| 回答総数 | 1046 | |

| Q6 狩りの形態 （複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 単独 | 324 | 30.5% |
| ｸﾞﾙｰﾌﾟ | 570 | 53.7% |
| 依頼 | 170 | 16.0% |
| 管理 | 4 | 0.4% |
| 他 | 18 | 1.7% |
| 回答総数 | 1086 | |

| Q7-1 道具 （複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 囲い罠 | 97 | 9.1% |
| 箱罠 | 319 | 30.1% |
| くくり罠 | 280 | 26.4% |
| 散弾銃 | 672 | 63.3% |
| 空気銃 | 94 | 8.9% |
| ﾗｲﾌﾙ | 364 | 34.3% |
| 網 | 0 | 0% |
| 他 | 0 | 0% |
| 回答総数 | 1826 | |

| Q7-2 方法 （複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 犬と | 521 | 49.1% |
| 見張り | 16 | 1.5% |
| 餌まき | 140 | 13.2% |
| 餌なし | 53 | 5.0% |
| 餌と犬 | 19 | 1.8% |
| 回答総数 | 749 | |

| Q7-3　狩りにイヌを使用するか | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| イヌあり | 436 | 41.1% |
| イヌなし | 411 | 38.7% |
| 無回答 | 214 | 20.2% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q8　狩猟対象動物（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 小動物 | 5 | 0.5% |
| ｳｻｷﾞ | 17 | 1.6% |
| ｼｶ | 819 | 77.2% |
| ｲﾉｼｼ | 924 | 87.1% |
| ｷﾂﾈ | 0 | 0.0% |
| ｲﾀﾁ | 3 | 0.3% |
| ｸﾏ | 3 | 0.3% |
| ｱﾗｲｸﾞﾏ | 26 | 2.5% |
| 鳥類 | 208 | 19.6% |
| 他 | 4 | 0.4% |
| 回答総数 | 2009 | |

| Q9　狩りの理由（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 害獣 | 558 | 52.6% |
| 伝統 | 43 | 4.1% |
| 自然 | 188 | 17.7% |
| 好き | 561 | 52.9% |
| 賞品 | 10 | 0.9% |
| 肉 | 125 | 11.8% |
| ﾅｼ | 39 | 3.7% |
| 他 | 18 | 1.7% |
| 回答総数 | 1542 | |

| Q10 猪狩りの理由（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 害獣 | 444 | 41.8% |
| 被害 | 521 | 49.1% |
| 楽しい | 444 | 41.8% |
| 賞品 | 13 | 1.2% |
| 肉 | 137 | 12.9% |
| ﾅｼ | 33 | 3.1% |
| 猪ﾅｼ | 33 | 3.1% |
| 他 | 5 | 0.5% |
| 回答総数 | 1630 | |

| Q11 イノシシの印象（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 可愛い | 147 | 13.9% |
| 怖い | 259 | 24.4% |
| 嫌い | 208 | 19.6% |
| 珍しい | 48 | 4.5% |
| その他 | 118 | 11.1% |
| 回答総数 | 780 | |

| Q12 イノシシの印象（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 豊かな自然資源 | 173 | 16.3% |
| 魅力的な野生 | 176 | 16.6% |
| 肉 | 425 | 40.1% |
| 危険な動物 | 259 | 24.4% |
| 可愛い | 26 | 1.1% |
| 醜い | 14 | 1.3% |
| 怖い | 45 | 4.2% |
| 面白い・興味深い | 74 | 7.0% |
| 観察が楽しい | 16 | 1.5% |
| 高い破損を引き起こす害獣 | 251 | 23.7% |
| 流行病などの感染源 | 9 | 0.8% |
| 自然保護に危機をもたらす | 111 | 10.5% |
| 特になし | 62 | 5.8% |
| 他 | 118 | 11.1% |
| 回答総数 | 2395 | |

| Q13 イノシシは好きか？ | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 101 | 9.5% |
| はい | 397 | 37.4% |
| いいえ | 272 | 25.6% |
| どちらでもない | 291 | 27.4% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q14 あなたのまちにイノシシは居てほしいか？ | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 112 | 10.6% |
| はい | 315 | 29.7% |
| いいえ | 455 | 42.9% |
| どちらでもない | 179 | 16.9% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q15 イノシシに生きる権利はあるか？ | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 112 | 10.6% |
| はい | 686 | 64.7% |
| いいえ | 84 | 7.9% |
| どちらでもない | 179 | 16.9% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q16 餌付けの経験の有無 | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 100 | 9.4% |
| はい | 181 | 17.1% |
| いいえ | 779 | 73.4% |
| どちらでもない | 1 | 0.1% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q17 イノシシに餌付けをしたいか？ | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 107 | 10.1% |
| はい | 71 | 6.7% |
| いいえ | 773 | 72.9% |
| どちらでもない | 110 | 10.4% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q18 野生動物に餌付けをしたいか？ | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| 無回答 | 107 | 10.1% |
| はい | 67 | 6.3% |
| いいえ | 786 | 74.1% |
| どちらでもない | 101 | 9.5% |
| 合計 | 1061 | 100.0% |

| Q19　好きな動物（複数回答可） | 集計 | 比率 |
|---|---|---|
| イヌ | 664 | 62.6% |
| ネコ | 305 | 28.7% |
| 小動物 | 105 | 9.9% |
| 鳥類 | 138 | 13.0% |
| 大型動物 | 177 | 16.7% |
| 海の哺乳類 | 70 | 6.6% |
| 爬虫類 | 10 | 0.9% |
| 両生類 | 6 | 0.6% |
| 有袋類 | 41 | 3.9% |
| その他 | 7 | 0.7% |
| 回答総数 | 1523 | |

表２　クロス集計結果　職業年代別(%)

| 職業/年代 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 空白 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 農林漁業の自営･家族従業者 | 0.2 | 0.4 | 0.3 | 0.8 | 11.4 | 6.3 | 1.5 | 0.0 | 20.9 |
| 商工販売サービス業の自営家族従業者 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 3.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 4.4 |
| 自由業(医師, 弁護士等の個人事業者) | 0.0 | 0.3 | 0.5 | 1.3 | 2.9 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 5.9 |
| 会社役員･経営者 | 0.0 | 0.5 | 1.4 | 1.2 | 4.1 | 1.8 | 0.1 | 0.0 | 9.1 |
| 会社員 | 0.1 | 1.2 | 3.0 | 5.9 | 7.9 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 18.9 |
| 公務員 | 0.1 | 0.1 | 1.0 | 1.4 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.0 |
| パート | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.2 | 1.9 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| 無職 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.6 | 14.0 | 12.8 | 1.0 | 0.0 | 28.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 |
| (空白) | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | 3.2 | 1.3 | 0.1 | 0.0 | 5.5 |
| 総計 | 0.5 | 2.7 | 7.0 | 12.5 | 49.8 | 24.8 | 2.7 | 0.0 | 100.0 |

表３　クロス集計結果　イノシシへの意識　(Q13：Q14)

| | Q14 イノシシはあなたのまちに居てほしいか？ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Q13 イノシシは好きか？ | 無回答 | はい | いいえ | どちらでもない | 総計 |
| 無回答 | 8.7% | 0.6% | 0.2% | 0.1% | 9.5% |
| はい | 1.1% | 22.6% | 9.5% | 4.1% | 37.4% |
| いいえ | 0.3% | 2.1% | 21.8% | 1.5% | 25.6% |
| どちらでもない | 0.5% | 4.4% | 11.4% | 11.1% | 27.4% |
| 総計 | 10.6% | 29.7% | 42.9% | 16.9% | 100.0% |

表４　クロス集計結果　イノシシへの意識（Q13:Q15）

| | Q15 イノシシに生きる権利はあるか？ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Q13 イノシシは好きか？ | 無回答 | はい | いいえ | どちらでもない | 総計 |
| 無回答 | 8.8% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 9.5% |
| はい | 0.9% | 31.6% | 1.6% | 3.3% | 37.4% |
| いいえ | 0.5% | 14.2% | 5.4% | 5.6% | 25.6% |
| どちらでもない | 0.4% | 18.1% | 0.9% | 8.0% | 27.4% |
| 総計 | 10.6% | 64.7% | 7.9% | 16.9% | 100.0% |

表５　クロス集計結果　イノシシへの意識　（Q14:Q15）

| | Q15 イノシシに生きる権利はあるか？ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Q14 イノシシはあなたのまちに居てほしいか？ | 無回答 | はい | いいえ | どちらでもない | 総計 |
| 無回答 | 8.7% | 1.1% | 0.6% | 0.2% | 10.6% |
| はい | 0.8% | 26.0% | 1.2% | 1.6% | 29.7% |
| いいえ | 0.8% | 26.3% | 5.9% | 9.9% | 42.9% |
| どちらでもない | 0.3% | 11.2% | 0.2% | 5.2% | 16.9% |
| 総計 | 10.6% | 64.7% | 7.9% | 16.9% | 100.0% |

表６　イノシシに対するイメージ

| イノシシに対する印象 カテゴリー別 | | |
|---|---|---|
| マイナスイメージ詳細 | | |
| 怖い | 259 | 24.4% |
| 嫌い | 208 | 19.6% |
| 危険 | 259 | 24.4% |
| 醜い | 14 | 1.3% |
| 怖い | 45 | 4.2% |
| 害獣 | 251 | 23.7% |
| 感染源 | 9 | 0.8% |
| 自然破壊 | 111 | 10.5% |
| マイナスイメージ | 1156 | 48.3% |
| 中間的イメージ詳細 | | |
| 特別な感覚はなし | 62 | 5.8% |
| 肉資源 | 425 | 40.1% |
| 豊かな自然資源 | 173 | 16.3% |
| 中間的イメージ | 660 | 27.6% |
| プラスイメージ詳細 | | |
| 可愛い | 147 | 13.9% |
| 珍しい | 48 | 4.5% |
| 魅力的な野生 | 176 | 16.6% |
| 面白い・興味深い | 74 | 7.0% |
| 観察が楽しい | 16 | 1.5% |
| プラスイメージ | 461 | 19.2% |
| 総回答数 | 2395 | 100.0% |

注）「可愛い」の項目に関してはQ11の回答をカテゴライズした。

表７　農林漁業従事者と非農林漁業従事者のイノシシに対する意識の比較

| | 農林漁業従事者（n=222） | | 非農林漁業従事者（n＝844） | |
|---|---|---|---|---|
| | | 比率　% | | 比率　% |
| Q11-1　かわいい | 21 | 2.0 | 120 | 14.2 |
| Q11-2　怖い | 45 | 20.3 | 214 | 25.4 |
| Q11-3　嫌い | 70 | 31.5 | 138 | 16.4 |

注）非農林漁業従事者には無職，その他，未回答を含む。

表８　「イノシシが好き」に対する順序ロジスティック回帰分析の結果

| 質問項目 | 回答項目 | 回帰係数 | 有意確率 |
|---|---|---|---|
| イノシシが好き | はい | 1.777 | **0.000** |
| | どちらでもない | 0.138 | 0.416 |
| | いいえ | | |
| 居住年数 | 50 年以上 | −0.126 | 0.404 |
| | 50 年未満 | | |
| 狩猟頻度 | 週 1 回以上 | 0.107 | 0.473 |
| | 週 1 回未満 | | |
| 狩猟をする場所 | 森林･平野･森林平野混合 | 0.071 | 0.639 |
| | 山林 | | |
| 狩猟場までの距離 | 10km の範囲内 | −0.446 | **0.004** |
| | 10km の範囲外 | | |
| イノシシに居て欲しいか否か | はい･どちらでもない | 1.933 | **0.000** |
| | いいえ | | |

注）独立変数には二値変数を用いた。その際，二値の度数が最も均等になるように変数を作成した。

表９　「イノシシが居て欲しい」に対する順序ロジスティック回帰分析の結果

| 質問項目 | 回答項目 | 回帰係数 | 有意確率 |
|---|---|---|---|
| イノシシに居て欲しい | はい | 1.737 | **0.000** |
| | どちらでもない | 0.723 | **0.000** |
| | いいえ | | |
| 居住年数 | 50 年以上 | −0.356 | **0.022** |
| | 50 年未満 | | |
| 狩猟頻度 | 週 1 回以上 | 0.226 | 0.145 |
| | 週 1 回未満 | | |
| 狩猟をする場所 | 森林・平野・森林平野混合 | −0.026 | 0.867 |
| | 山林 | | |
| 狩猟場までの距離 | 10km の範囲内 | 0.470 | **0.004** |
| | 10km の範囲外 | | |
| イノシシが好きか | 好き | 2.022 | **0.000** |
| | どうちらでもない・いいえ | | |

注）独立変数には二値変数を用いた。その際，二値の度数が最も均等になるように変数を作成した。

（一晃社　地球環境学研究室・東京女子大学現代教養学部心理・コミュニケーション学科・
京都大学大学院人間・環境学研究科）

【謝辞】本研究は京都大学大学院地球環境学舎所属時に京都大学大学院　地域空間論分野　小方登教授のご指導のもと遂行した。また小島奏雄教授にはアドバイスをいただいた。ここに記して深甚なる謝意を表します。調査につきましては兵庫県県議会議員松田一成先生，兵庫県自然環境課，兵庫県猟友会会員の皆様に多大なご協力をいただいた。厚く御礼を申し上げます。

【注】

1) 2013 年 2 月 15 日～3 月 31 日，ドイツ・ハノーファー大学 Keuling 博士の元でインターンシップ実施。Global COE Program - Sustainability/Survivability Science for a Resilient Society Adaptable to Extreme Weather Conditions（ARS）の助成により参加。

【参考文献】

石川圭介・江口祐輔・植竹勝治・田中智夫 2001．イヌはイノシシへの嫌悪刺激になり得るか―対面時のイヌの行動―．日本畜産學會報 72，594-604.

板橋朋洋 2022．2020 年における新型コロナウイルス COVID-19 の流行が日本の人々の自然体験に対する関心に与えた影響．日本森林学会誌 104(3)，170-175.

神戸市 2014．いのししからの危害の防止に関する条例　平成 26 年 10 月 31 日　条例第 23 号.
https://www1.g-reiki.net/city.kobe/reiki_honbun/k302RG00001654.html（観覧　2022/8/21）

神戸新聞 2021．神戸のイノシシ被害激減　２０年度は２件のみ，ピーク時の 5%に.
https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202104/0014206002.shtml（観覧　2022/8/22）

神戸市ホームページ 2022．有害鳥獣被害対策について，イノシシ被害対策.
https://www.city.kobe.lg.jp/a99375/shise/kekaku/kezaikankokyoku/yugaichoju/inosisi.html（観覧　2022/8/21）

田中俊明・揚妻直樹・杉浦秀樹・鈴木　滋 1995．野生ニホンザルを取り巻く社会問題と餌付けに関する意識調査.霊長類研究．Primate Res11，123-132.

西宮市 2013．西宮市いのしし餌やり禁止条例　西宮市条例第 31 号.
https://www.ni.shi.or.jp/kotsu/nogyo/chojutaisaku/inoshishiesayari.files/inosisiesayarikinsijyourei.pdf（観覧　2022/8/21）

日本経済新聞 2020．矢野経済研究所，国内アウトドア関連市場の調査結果を発表.
https://www.nikkei.com/article/DGXLRSP601066_S0A201C2000000/（観覧　2022/8/21）

兵庫県 2022a．第３期イノシシ管理計画(案)の概要.
https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/documents/20220207_9570_8.pdf（観覧　2022/8/21）

兵庫県 2022b．第３期イノシシ管理計画　令和４年度事業実施計画　令和４年４月.
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk27/documents/2_2inosisinendobetukeikaku.pdf（観覧　2022/8/21）

兵庫県 2022c．第３期イノシシ管理計画及び 令和４年度事業実施計画 資料編　令和４年４月.
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk27/documents/2_3inosisinendobetukeikakusiryou.pdf（観覧　2022/8/21）

布施綾子 2011．イノシシ餌付け禁止条例施行前後におけるイノシシ出没状況の変化と住民意識－神戸市東灘区を事例として－．システム農学 27(2)，55-62.

布施綾子・塩野埼和美・福島慎太郎・小方　登・山田文雄 2015. 奄美大島　名瀬鳩浜・名瀬佐大熊におけるリュウキュウイノシシ（*Sus Scrofa riukiuanus*）の出没時間の傾向―イヌとヒトとの関連に着目して―. ヒトと動物の関係学会誌 42, 35-43.

布施綾子・福島慎太郎 2014. 人とイノシシの行動調査―神戸市東灘区を事例として―. システム農学 30(2), 41-48.

堀内史朗 2020. 都市から地方への移住者の目的と，その受け入れ対策―公開されている移住者インタビューに注目して―. 阪南論集　社会科学編 55(2), 1-11.

Soga, M. and Gaston, K. J. 2016. Extinction of experience: the loss of human– nature interactions. *Frontiers in Ecology and the Environment*14, 94-101.

Venter, Z., Barton, D., Gundersen, V., Figari, H. and Nowell, M. 2020. Urban nature in a time of crisis: recreational use of green space increases during the COVID-19 outbreak in Oslo, Norway. *Environmental Research Letters*15(10), 104075.

United Nations 2015. Resolution adopted by the General Assembly on 25 September 2015. 70/1. Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development.
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000101401.pdf
外務省ホームページ（観覧　2022/8/29）